

町井台水 まちのうみ 砲術家、漢學者。天保八年十月（二十）一日伊賀上野生れ、明治二十九年六月十日歿（一八七〇—一九〇六）。諱義道、字醉伯、幼名八治、通稱治。別號八寸齋、台水處士、愛竹幽人、笑古樓。中内樸堂の門に入り經史を學ぶ。津藩主藤堂高猷たかのむねの下、砲術教師兼撤兵隊長として大誅組浪士討伐の功を擧げ、十五人扶持の俸を受く。維新後三重縣に出仕、各地の郡長を歴任。また私塾を開き、門生前後數千人といふ。壯時火藥製造中、誤發して顔面を焦し初見者を畏怖せせると、性を陥落、人と接するに城府を設けずと。

著書に『猶賢社文鈔』、『消夏行記』、『今體文式』（一冊）（前編及前編附録・明治十七年六月鹽鳴鹽文告）、書翰集『畝嶺東岬』（昭和十五年四月二十八日町井鐵之介編刊）等。

